平成３０年度　校内研修計画

大藤小学校

１　学校課題

大藤地区は，甲州市塩山地区の東部に位置し，古くから，桃，すもも，ぶどう等の果樹栽培がさかんな緑豊かな地域である。地域の方々や保護者は，学校教育に協力的で，児童は総合的な学習をはじめとする様々な教科のなかで，安心して地域に出て学習している。昨年度は，学習発表会を開いて地域の方々に学習成果を伝えることもできた。また，読み聞かせやふれあい集会等で，地域の方が定期的に学校に来て，児童と触れ合う活動もある。

本年度の全校児童数は４１名で，年々減少しており，昨年度から複式学級となった。高学年は，１０人以上だが，それ以外の学年は一桁である。

人数が少ないので，全校児童が仲が良く，休み時間などは異学年で一緒に遊び，上の児童が下の児童の面倒をよく見ている。その反面，競争心に欠け，場に応じた対応ができないことが課題としてあげられる。児童一人一人に目を向け，どの子も生き生きと学校生活を送れるような研究をしていきたい。

２　研究主題

「主体的に表現する児童の育成」
～個を生かした学習集団づくりを通して～

３　主題設定の理由

（１）社会の要請から

これからの「知識基盤社会」を生き抜いていくためには，基礎的・基本的な知識や技能を確実に習得し，それらを活用して課題解決をしていくために，解決に必要となる思考力・判断力・表現力等を育成し，主体的に学習に取り組む態度を養うことが，学校教育に期待されている。

（２）学校教育目標及び子どもの実態から

平成３０年度山梨県学校教育指導重点項目の１つに，「知識・技能，思考力・判断力・表現力等，学びに向かう力・人間性の育成」がある。また，甲州市学校教育指導重点の２項目目には，「生涯にわたり学習する基盤が培われるよう，確かな学力をはぐくむ指導と評価に努める。」がある。

これらを受けた本校の学校教育目標は『自ら考え，正しく判断し，行動する児童の育成』である。具体的には，「自ら考えて学習する子ども」，「健康で明るい子ども」，「思いやりの心をもつ子ども」，「協力しやりぬく子ども」，「郷土を愛する子ども」の５つの姿を目指している。それを受けて本年度の重点として，「確かな学力と自立する力の育成」，「豊かな心と自己実現を図る力の育成」，「健康で豊かな生活を営む資質能力の育成」，「安全に安心して学べる教育環境づくり」をあげている。

「確かな学力と自立する力の育成」のために，確かな学力の基となる基礎的・基本的な知識及び技能を確実に身に付けることや，外に向かって発信するために必要な思考力・判断力・表現力を育むことに力を入れたい。自分の考えを表現するためには表現するための確かな学力が必要である。しかし，それらの学力を知っているだけでは十分ではない。たとえ，言葉が分かっていても，その本質を理解していなければ，発信することはできない。学力を効果的に活用して，相手にわかるように伝えなければ，理解は得られない。そのためには，本校の特性である少人数を生かし，さらには，児童一人一人を大切にした授業の工夫をしていきたい。児童理解をするために，Q-U，NRT 検査，全国学力・学習状況調査，県学力把握調査の分析を行い，それらを活用した児童一人一人の実態を丁寧に把握する。それらを基に，授業改善に取り組み，学力が向上するような授業展開を追究することで，研究主題である「主体的に表現する児童」を育成し，さらに個を生かした学習集団づくりにつなげていきたい。サブテーマにしている「個を生かした学習集団」とは，一人一人の個性を認め，お互いを理解し合い，お互いが関わり合って，学び合い，高め合うことのできる集団である。

４　研究の具体的内容と方法

（１）具体的内容

・少人数や小集団，個を生かした「主体的・対話的で深い学び」の実現のための授業実践と検証。（コミュニケーション，ICT の活用も含む）
・Ｑ－Ｕを生かした児童理解と集団づくり。PDCA サイクルを活用。児童の実態調査（NRT 検査・全国学力テスト・県学力把握テスト）
・家庭学習と授業を有機的に結びつける。（宿題や課題）
・基本的生活習慣（三本柱～あいさつ・返事，時間を守る，人の目を見てしっかり聴く～），学習規律の育成。

（２）方法

・指導主事を招聘しての授業研究の実践と一人一実践の取組。（11 月までに。５月中旬までに計画）
・講師を招聘しての研修。Ｋ13 法による分析とアタックシートを活用しての集団づくり。
・「大藤スタンダード」「家庭学習の手引き」「家庭教育実践事例集」「家庭教育　子育てＱ＆Ａ」を活用した家庭学習の効果的な実践の取組。
・３本柱の具体的な場面での取組を実践。学年に応じた大藤スタンダードの徹底。
〈あいさつ〉・・・大きな声で・目を見て・名前を加えて　｝　できない場合は，やり直し
〈返事〉　　・・・気持ちのよい「はいっ」
〈時間を守る〉・・・５分前行動
〈人の話を聴く〉

（３）検証方法

・NRT 検査（２～６年），全国学力・学習状況調査（６年），県学力把握調査（３，５年）は，学習面の成果の把握と今後の授業改善に生かす。
・Q-U 検査は，学級集団の状況把握以上に個人の見取りを大切に行う。全体で K-１３法を使って分析・考

察を行う。要支援群に属する児童や，プロットの位置が教師の見取りと違う児童への手立てを考え，アタックシートを作成する。
・授業実践での児童の変容，ノート・ワークシート等の記述から検証する。

年間研修計画

回数	研究テーマ	教科・領域	担当	学年	授業時期	TC要請
1	４／４　昨年度の状況について	授業改善	川野	全		
2	４／１１　本年度の方向性について	授業改善	堀内	全		
3	４／２５　本年度の学校課題，研究主題，研究内容・方法，年間計画等について	授業改善 学級集団づくり	堀内	全		
4	５／２　校内研究の確認	授業改善 学級集団づくり	堀内	全		
5	５／１１　個を生かしたＫ１３法の分析学習会	学級集団づくり		全 1,2年		○
6	５／３０　NRTの分析と）K13法によるQ-Uの分析（１，２学年と全校） 一人一実践の取組	学級集団づくり	堀内 渡邉 個	3,4年		
7	６／２０　NRTの分析とK13法によるQ-Uの分析（３，４学年）	学級集団づくり	深味 有井	5,6年		
8	７／１１　NRTの分析とK13法によるQ-Uの分析（５，６学年）	学級集団づくり	川野 荒井	全		
9	８／１７　教育課程研修還流報告会 全国学力・学習状況調査・県学力把握調査の分析と課題の把握	授業改善	各担当	全		
１０	９／５　学年の課題解決と一人一実践にむけた学習計画づくり （具体的に考える。いつ・どの単元で）	授業改善	個	個		
１１	９／１２　第○学年授業案検討	授業改善		全		
１２	（９／２６）					
１３	１０／３　第○学年授業案検討	授業改善		全		
１４	１０／１０　第○学年研究授業	授業改善		全	10月	○
１５	１０／２４　K13法によるQ-Uの分析（全校，４，５，６学年） 第○学年授業案検討	学級集団づくり 授業改善	堀内 有井 川野 荒井	4，5，6年 ○年		
１６	１１／７　K13法によるQ-Uの分析（1，２，３学年） 第○学年授業案検討 11月まで	学級集団づくり 授業改善	堀内 渡邉 深味	1，2，3年 ○年		
１７	１２／５　第○学年研究授業	授業改善		○年	12月	○
１８	１／３０　研究紀要作成について		堀内	全		
１９	２／２０　研究紀要作成		個	個		
２０	２／２７　研究の成果と課題について	学級集団づくり 授業改善	堀内	全		
２１	３／６　県指導重点について，研究の成果と課題について	学級集団づくり 授業改善	堀内	全		
２２	３／１３　研究紀要製本		堀内 渡邉			